

第95回全国高校野球選手権記念大会・選手宣誓

宣誓。

私たちは今、この甲子園球場に立てることに幸せを感じています。

第95回を数える長い歴史の中で、様々な困難を乗り越え、本当に多くの先輩方が、前を向き、夢、感動、勇気を与えてくれました。それを、私たちも継承し、また、先輩方に負けないように、決してあきらめず、仲間を信じ、未来を信じ、今よりも一歩でも前進します。

今、生きていること、全てのいのちに生かされている重みをしっかりと受け止め、高校生らしく爽やかに、すがすがしいプレーをすることを誓います。

平成25年8月8日

選手代表

北海道帯広大谷高等学校野球部主将

杉浦 大斗

開会式で入場行進の先導役と開幕試合の始球式を務めた球児3人

投手を務めた岩手・宮古北高の山本将大君(3年)は、津波で犠牲になった祖父の写真をポケットにしのぼせてマウンドへ。渾身(こんしん)の力を込めた一球は高くそれたが「天国のおじいちゃんに、ここが甲子園だよっていいました。復興を支援してくれた全国の皆さんへ感謝の思いを込めて投げることができた」。

山本君とバッテリーを組んだ宮城・石巻商高の今野克哉君(3年)は「甲子園の土を踏んだ瞬間にチームメート全員の顔が浮かんだ。心はひとつです」。津波のがれきで埋まったグラウンドで、懸命に練習を続けてきた仲間たちを思った。

先導役を務めた福島東高の今泉翔太君(3年)は福島県波江町出身。原発事故のため入学予定だった双葉高から転入した。「緊張したけど、大役を無事終えることができた。この自信を復興の力に変えたい」と話した。

(日刊スポーツより)